

戦争と宇品港

難工事の末つくられた宇品港も最初は、その価値をあまり認められませんでした。しかし、明治27年(1894)に、日清戦争が始まると、宇品港は戦地へ軍隊をおくるための港として利用されることになりました。この戦争をきっかけとして、広島には多くの軍の施設がつくられ、宇品港は、軍用港として大きな役割を果たしました。

宇品港から広島港へ

軍用港として、制約の多かった宇品港は昭和7年(1932)広島港として名称を改め、翌8年(1933)から商業港、15年(1940)から工業港の修築工事が始められ、22年(1947)に完成し、広島の経済の発展に役立ってきました。そして平成4年(1992)には、外国との貿易をするための特に重要な港として、国からみとめられ、また、宇品を広島の玄関にふさわしい港と町にするための事業(広島ポートルネッサンス21)も始まりました。

広島港の歩み

年代		主なできごと
明治13	1880	千田貞暁が広島県令となる。
	17	1884 宇品港をつくる工事が始まる。
	22	1889 宇品港が完成する。
	27	1894 山陽鉄道が広島まで開通する。
	30	1897 日清戦争が始まる。宇品線が開通する。陸軍中央糧秣廠宇品支廠(のちの宇品陸軍糧秣支廠)が設置される。
37	1904	日露戦争が始まる。陸軍運輸部本部を宇品に置く。
	大正3	1914 第一次世界大戦が始まる。
15	1926	宇品・大連間定期航路が開設される。
	昭和7	1932 宇品港を広島港に改称する。
12	1937	日中戦争が始まる。
	16	1941 太平洋戦争が始まる。
	20	1945 原子爆弾が投下される。
	22	1947 商業港と工業港の工事が完成する。
	23	1948 貿易港として開港指定をうける。
35	1960	1万トンバースが完成する。
	61	1986 宇品線さよなら列車が走る。
平成4	1992	特定重要港湾に指定される。「広島ポートルネッサンス21」事業が始まる。

学習の手引

第22号

宇品の港



宇品港棧橋

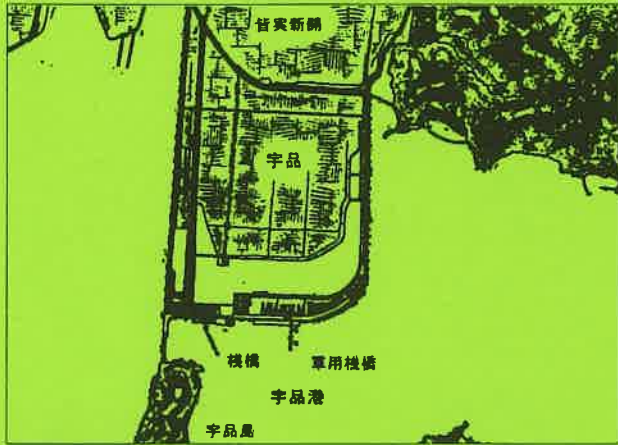
〔改訂再版広島県新地誌〕(明治24年出版)より。明治27年から軍用棧橋となる。

広島市郷土資料館

☎734-0015 広島市南区宇品御幸二丁目6番20号

☎(082) 253-6771

港をつくる計画



港ができたころの宇品周辺
明治37年の水路図をもとに作成

明治時代の初めごろ、皆実新開と宇品島の間には、遠浅の海が広がっていました。ここに、新たな陸地（宇品新開）が開かれ同時に、宇品港がつくられたことにより、今日の宇品のまちの基礎ができあがりました。

明治13年（1880）、千田貞暁が広島県令（今の県知事）として広島にやってきました。千田貞暁は、広島を発展させるには、道路と港を整えることが必要であると考え、宇品に港をつくることを決意しました。

そこで、オランダ人技師ムルデルを招い

て工事計画書をつくりました。

この計画は、

- (1) 皆実新開と宇品島との間に堤防をつくり、宇品島と金輪島の間を港とする。
- (2) 広島市街地と港を結ぶ道路をつくる。
- (3) 皆実新開の前面に新たな新開地をつくる。

という大規模なものでした。

宇品港の完成

工事にかかる費用を計算したところ、18万円以上（最初の予定は10万円）もかかることがわかりました。

千田貞暁は、このことで悩みますが、服部長七の考え出した人造石（花こう岩の土と石灰を混ぜ合わせたもの）をつかえば、



宇品港の絵葉書

右3枚広島市公文書館、左1枚広島築港百年史編集委員会提供

安い費用で工事ができることを知り、この方法を採用しました。

また、漁場がうばわれたり、排水の逃げ道がなくなったり、水不足で作物ができにくくなったりするという理由で近くの漁民や農民による工事に対する反対運動も起こりました。千田貞暁は、何度も話し合いをし、広島発展のために協力を得ることにしました。

明治17年（1884）9月、港をつくる工事が始まりました。ところが、樋門がこわされたり、暴風雨によって堤防がこわれたり、工事は大幅におくれ、お金も足りなくなりました。千田貞暁は、国の補助を求めるとともに、自分の財産を売るなどして工事を続け、明治22年（1889）11月、5年3か月の月日と30万円あまりの費用をかけ宇品港が完成しました。